

## 「スポーツは1つ」を合言葉に地域で様々な交流を展開

### ～大分県における障がい者とクラブの活動交流の事例～

#### 交流へのキッカケ

大分県の障がい者スポーツの代表と言えば、今年で 32 回を重ねた「大分国際車いすマラソン大会」です。県民の支援で今や世界的な大会となっています。この大会に対するボランティアの数も毎回 2,000 人以上にのぼっています。

また障がい者の働く場づくりとして 1965 年に別府市に創立された社会福祉法人「太陽の家」でも、多くのスポーツ活動が行われています。

さらに、「大分県障がい者体育協会」も“障がい者と地域の連携”をテーマにスポーツ活動を展開しており、なかでも県内の総合型地域スポーツクラブ（以下、クラブ）との連携は盛んに行われています。

障がい者スポーツとしては「卓球バレー」(\*) や、ペタンクと類似した「ボッチャ」、「フライングディスク」等が、健常者と交流しやすいスポーツ活動としてあげられます。「大分県障がい者体育協会」は、このような種目を地域やクラブに広める活動に力を入れていますが、その一環としてクラブとの交流がスタートしました。きっかけは、障がい者関連団体代表の方に、2008 年度、日本体育協会総合型地域スポーツクラブ育成事業の事業委託を受け発足した「大分県総合型クラブ育成委員会」の委員就任をお願いしたことでした。

一方、2008 年の「二巡目大分国体」後の「全国障害者スポーツ大会・チャレンジ！おおいた大会」の開催を機に、障がい者団体とクラブの交流活動は盛んになりました。

今回は、特定のクラブ紹介ではなく、大分県の交流状況全般について紹介をします。

(\*) 卓球バレー…1974 年に京都地区の養護学校で誕生した卓球台を使い 6 人制バレーボールのルールを元に考案されたゲーム的スポーツ。1 チーム 6 人で、2 チーム 12 名が卓球台を囲み座りながら球を 3 打で打ち返す。次頁の写真参照。

#### 交流の内容

各クラブにおける交流では、クラブイベント（感謝祭、総会等）開催時のプログラムで、障がい施設利用者や地域の生涯を持った方とクラブ会員との交流やニュースポーツとしての体験会が行われています。種目としては、「卓球バレー」「ボッチャ」「フライングディスク」「風船バレー」が多く取り上げられています。福祉施設入所者や障がい施設の子どもたちを対象にした、クラブ独自の体験教室（カヌー・バドミントン等）もあります。

障がい者体育協会もこれを機会にクラブ関係者に対して「障害者スポーツ指導員」の資格取得をすすめるなどの積極的な活動も見られます。

毎年開催される「大分県総合型地域スポーツクラブ交流会」（大分県教育委員会・大分県体育協会共催、SC おおいた ネット主管）では、近年、障がい者との交流スペースを設けて交流や体験を行っています。

また、交流に必要な用具等も、社会福祉法人「太陽の家」の組織内にある「大分県障がい者スポーツ指導者協議会」で、貸し出しや指導、販売も行っています（連絡先は文末）。

これまで3カ年に交流したクラブ数は下記の通りです（複数回を含みます）。

2010 年度 ： 1 3 クラブ

洞門元気クラブ、9 2 3 みんなんクラブ、TMKチャレンジクラブ、OKYさわやかスポーツクラブ、本匠ホタッピィクラブ、童里夢スポーツクラブ、田野ふれあいクラブ、みなみスポーツクラブ、賀来衆倶楽部、ひまわりのたね、にこしんクラブ、北部スポーツクラブ、Nスポーツクラブ

2011 年度 ： 1 8 クラブ

洞門元気クラブ、9 2 3 みんなんクラブ、TMKチャレンジクラブ、OKYさわやかスポーツクラブ、童里夢スポーツクラブ、賀来衆倶楽部、OZAI元気クラブ、おおみちふれあいクラブ、ひまわりのたね、にこしんクラブ、Nスポーツクラブ（感謝祭）、佐伯スポーツフェスタ、総合型スポーツクラブ交流会

2012 年度 ： 1 6 クラブ

9 2 3 みんなんクラブ、洞門元気クラブ、OKYさわやかスポーツクラブ、わいわい夢クラブ、賀来衆倶楽部、おおみちふれあいクラブ、にこしんクラブ、つるみ友クラブ、ひまわりのたね、本匠ホタッピィクラブ、みなみスポーツクラブ、OZAI元気クラブ、総合型スポーツクラブ交流会

## 活動風景

ボッチャの体験風景（賀来衆倶楽部）



障がいを持った子どもたちのカヌー体験（洞門元気クラブ）



24 年度大分県総合型地域スポーツクラブ交流会での卓球バレー交流風景

クラブ総会の後の交流会で卓球バレーを楽しむ（ほくぶスポーツクラブ）



## 交流で感じたこと

一度交流すると、各クラブでは毎年事業として企画するようになります。スポーツ種目によっては、健常者のスポーツ活動（高齢者、子ども対象）プログラムとしても活用できるものもあり、事業の幅が広がったクラブ（賀来衆倶楽部）や、健常者のスポーツ種目を逆に障がい者に体験してもらうことで障がい者側が新たな発見をする場面もあります（洞門元気クラブ）。

また、地域に障がい者施設を有するクラブでは、施設利用や交流も行われています（洞門元気クラブ、ほくぶスポーツクラブ）。

地域に住む全ての人々が「スポーツは1つ」を合言葉に、いろいろな垣根を越えて交流していくことは総合型地域スポーツクラブの理念とも合致するものです。今後は障がいを持った人々が会員としてもより多く活動することが望まれます。

（土谷忠昭 大分県クラブ育成アドバイザー）

大分県障がい者スポーツ指導者協議会（堀川祐二）

〒874-0011 大分県別府市内竈（かまど）1393-2

社会福祉法人 太陽の家内

メール：[sido@ooitamejiro.jp](mailto:sido@ooitamejiro.jp)

電話：0977-66-0277

（堀川）080-5258-0571

関連リンク：土谷忠昭氏プロフィール

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/503/Default.aspx>